

施策番号	2603		
施策名	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上		
概要	事故や災害等から市民を守り、救命効果を向上させるため、応急手当のできるひとづくりを推進するとともに、高度な救急活動体制を構築する。		
担当局・部室	消防局・消防学校	共管局・部室	
上位政策	26 消防・防災		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		28年度	29年度	30年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	応急手当の知識や技術を身につけた市民の数 (人)	a	a	39,252	38,989	34,000	114.7%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		28年度	29年度	30年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。	c	c	20 4.8%	103 24.6%	217 51.9%	52 12.4%	26 6.2%	418
2	-	-	-						-
3	-	-	-						-
4	-	-	-						-
5	-	-	-						-
		c	c	市民生活実感調査総合評価					c

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 消防・防災施策については、市民にとって平常時には実感を得にくいものであることから、客観指標を重視する。						29年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・救命講習の受講者数は、毎年目標数に到達しており、再受講者数も全体の30%を超えている。しかし、様々な年齢層や業種の方に幅広く受講していただけていないことが、市民の実感として表れていない原因と考えられる。						28年度	B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		30年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		29年度 決算額	30年度 予算額		
1	救急高度化事業	585,873	602,220	良い	消防局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・小学5,6年生に対して救命入門コース、中学生・高校生に対して普通救命講習の更なる受講を促進するため、学校長会等を通じた受講勧奨を継続する。
- ・幼稚園・保育園の職員等に対して普通救命講習の更なる受講を促進するため、園長会等を通じた受講勧奨を行う。
- ・救命講習を受講したことのない市民や事業所の従業者にも受講してもらうように、講習開催日等を積極的に広報するとともに、従前より定員を増やした講習を実施する。

施策名	2603	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上					
指標名	応急手当の知識や技術を身につけた市民の数（人）						
担当課	技術指導課		連絡先	6 8 2 - 0 1 3 1			
1 指標の説明							
京都市消防局が実施する救命講習の受講者数							
2 指標の意味							
救命効果の向上に資する市民の応急手当への対応力を示す指標			3 算出方法・出典等				
			算出方法：上級救命講習受講者数＋普通救命講習受講者数 出典：事業担当課調べ				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度	
数値	39,252	38,989	263名減	34,000	単年度に目標とする受講者数	114.7%	
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
最新数値の目標値に対する達成度が a：100%以上 b：90%以上100%未満 c：80%以上90%未満 d：70%以上80%未満 e：70%未満			6 基準説明		7 評価結果		
			・目標値を達成すればa評価 ・以下10%刻みでb～e評価		28	29	30
					a	a	a